

「部活問題」に特化した教職員組合、愛知で発足 全国組織化へ

毎日新聞 2022 年 1 月 18 日



記者会見する IRIS の加藤豊裕代表（中央）＝愛知県庁で 2022 年 1 月 18 日午後 5 時 39 分、太田敦子撮影

教員の過重労働の原因として指摘されている部活動の問題に特化した教職員組合「愛知部活動問題レジスタンス」(IRIS)が愛知県で発足した。同組合によると、部活動問題に特化した組合は全国初という。東京、茨城、三重など全国に 10 の任意団体があり、今週中にも全国組織を立ち上げ、春闘に向け連携して課題に取り組む。

18 日に名古屋市内で記者会見した組合代表で一宮市立小教諭の加藤豊裕さん(43)らは「部活動が誰かの犠牲の上に成り立っていることに目を向けるべきだ」「部活動をやりたくない人はやらない選択権を確立したい」などと話した。

愛知県内の小中学校や高校、特別支援学校などに勤務する教職員が加盟する職員団体として昨年 11 月 25 日、県に登録された。

部活動は教育課程で定められた活動ではないが、実際は指導が現場の教員に委ねられ、長時間労働が社会問題化している。IRIS は部活動の顧問を事実上命じられ、拒否したくてもできない教職員への支援を活動の柱とし、管理職との交渉を代行。拒否したことが原因で不当な扱いを受けないようフォローする。

部活動を巡っては、文部科学省が教員の負担軽減を図ろうと 2023 年度から土日や祝日の活動を学校管理下から外し、段階的に地域のスポーツクラブなどに運営を委ねていくことにしている。【太田敦子】